

領域	統合分野	対象学年	3年	開講時期	前期
科目	看護管理	単位(時間)	1単位(30時間)		
講師名 所属	力武 一久 嬉野医療センター 病院長(医師) 辻丸 祐規子 嬉野医療センター 看護部長 猿渡 千恵 嬉野医療センター 副看護部長 前田 和美 嬉野医療センター 副看護部長 福田 純子 嬉野医療センター 教育担当看護師長 山本 真由美 嬉野医療センター附属看護学校 教育主事 実務経験:看護師16年				
科目目標： 1. 地域における病院の役割と機能及び政策医療の特徴を理解できる 2. 看護師の役割と政策医療に関する看護の特殊性を理解できる 3. 患者に安全で安楽なサービスを提供するための看護管理を理解できる 4. 看護の動向や問題点を知り、既習した看護の概念や理論と統合し、倫理観や自己の看護に関する考えを深めることができる					
授業概要： 看護管理は、看護を仕組みとしてとらえ、資源を有効利用し、よりよい看護を提供するためにはどうすればいいのかを追求していくことである。また、チーム医療および他職種との協働のなかで看護師としてのメンバーシップ、リーダーシップのあり方、組織における看護師の役割を理解し、病院の機能と看護サービスの管理(マネジメント)について学ぶ。また看護職の職業倫理、倫理的ジレンマについては具体的事例を通して自己の考えを深める。					
授業計画					
回数	講義内容	講義形式	担当講師		
1～2	1. 病院の役割と機能 2. 国立病院機構が担う医療 1) 国立病院機構の使命(ミッション) (1) 幅広い医療 (2) 地域医療構想の推進による「地域完結型医療」の実践 (3) 臨床研究と教育研修のより一層の充実	講義	力武 一久		
3～4	1. 看護とマネジメント 2. 看護サービスのマネジメント 1) 組織として看護サービスをマネジメント 2) 組織目標達成のマネジメント (1) 理念の形成と浸透 (2) 看護の組織化 3. 組織とマネジメント 1) 組織構造と組織原則 2) マネジメントの基本 4. 国立病院機構の看護の機能と役割 5. 嬉野医療センターの看護理念	講義	辻丸 祐規子		

回数	講義内容	講義形式	担当講師
5～7	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護ケアのマネジメント <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護ケアマネジメントと看護職の機能 2) 患者の権利の尊重 3) 安全管理 2. チーム医療 <ol style="list-style-type: none"> 1) チーム医療に必要な機能 2) 看護専門職の責任と役割 3) 他職種との連携・協働 3. 看護業務の実践（日常業務のマネジメント） <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護業務 2) 看護基準と看護手順 3) 情報の活用 4) 日常業務の組み立て方、優先順位の決定 	講義	前田 和美
8～10	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護サービス提供のしくみづくり <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護単位の機能と特徴 2) 看護ケア提供システム 2. 労働環境 <ol style="list-style-type: none"> 1) 労働時間 2) 勤務体制 3) 雇用体制 3. 施設・設備環境のマネジメント 4. 物品のマネジメント 5. 情報のマネジメント 6. 看護の質の保障 <ol style="list-style-type: none"> 1) サービスの評価 <ol style="list-style-type: none"> (1) 評価の視点（構造・過程・結果） 2) 医療におけるサービスの質の評価 3) 医療機能の評価 	講義	猿渡 千恵
11～12	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人材のマネジメント <ol style="list-style-type: none"> 1) キャリアディベロップメント <ol style="list-style-type: none"> (1) 新人教育・研修 (2) 現任教育・研修 2) 人材フローのマネジメント <ol style="list-style-type: none"> (1) インフロー (2) 内部フロー (3) アウトフロー 2. 看護職員の教育制度 <ol style="list-style-type: none"> 1) 継続教育 2) 専門看護師・認定看護師制度, 認定看護管理者制度, 特定行為研修 3. 看護職員の養成 	講義	福田 純子

回数	講義内容	講義形式	担当講師
13～15	1. 看護職の法的責任 2. 看護職の職業倫理 3. 看護倫理・倫理的ジレンマ ジョンセン4分割表を用いた事例分析	講義 演習	山本 真由美
	試験		
テキスト			
1. 系統看護学講座 専門分野 看護管理 看護の統合と実践〔1〕 医学書院			
参考文献			
1. 系統看護学講座 基礎看護学[1]看護学概論, 医学書院			
2. 看護六法 令和5年版 新日本法規			
3. 国民衛生の動向 厚生労働統計協会			
評価方法			
筆記試験 レポート (別紙評価計画参照)			

領 域	統合分野	対象学年	3 年	開講時期	前期
科 目	広域看護方法論	単位（時間）	1 単位（30 時間）		
講師名 所 属	神谷 保彦 長崎大学 熱帯医学グローバルヘルス研究科 教授 中島 舞 嬉野医療センター 集中ケア認定看護師 院内講師 嬉野医療センター 救命救急科医師 村上 愛美 嬉野医療センター 看護師				
科目目標： 1. 国際的な健康問題や看護の国際協力の組織・しくみについて理解できる 2. 国際看護の実際について知り、諸外国との協力や看護師としての役割を考えることができる 3. 災害看護の実践に結びつく基礎的知識を理解し、技術・態度・行動力を習得することができる					
授業概要： グローバル化が進んだ現代の世界においては、わが国だけでなく地球上のあらゆる人々の健康を考えていく必要がでてきた。世界ではどのような問題が起こっていて、人々は何に苦しんでいるのかを知り、それに対し看護師は何かできるかを国際看護の内容で学ぶ。 災害看護では、近年地震や洪水、土砂災害などの災害の頻度や規模が拡大し、被害も増大してきている。このような状況の中で、被災傷病者の医療・看護への期待は大きくなっている。そのため災害看護を実践できる能力を養えるよう、基礎的な知識について実際の活動を交えながら学ぶ。 救急看護とは、突発的な外傷、急性疾患、慢性疾患の急性増悪などのさまざまな状況によって、救急処置が必要な対象に実施される看護活動で、救急看護は全ての看護職が実施しなければならない看護である。そのため救急看護の役割を理解し、救急活動の実際を学ぶ。					
授業計画					
回数	講義内容	講義形式	担当講師		
1～3	1. 国際看護の概念 1) 国際看護とは 2) グループヘルスと国際看護 2. 国際看護の実際 1) 文化を考慮した看護 2) 国際看護活動の実際 3. 国際協力のしくみ 1) 国際協力とは 2) 国際協力に関わる機関 3) 日本の国際協力のありかた	講義	神谷 保彦		
4～6	1. 救急看護とは 2. 救急看護の場 3. 救急看護の役割 4. 救急医療施設と救急医療体制	講義	中島 舞		
7	1. 救急看護体制 1) 救急外来における看護 (1) 救急外来の役割 (2) 救急医療施設到着からの流れ (3) 救急患者とその家族への心理的援助 2) 入院患者の急変	講義	中島 舞		

回数	講義内容	講義形式	担当講師
8	2. 救急活動の実際 1) 救急外来における救急看護の実際 (1) 看護の実際 ①胸部外傷患者の受け入れから診断、ICU 移送までの看護 ②熱中症患者の受け入れから診断、ICU 移送までの看護	講義	中島 舞
9～10	1. 救命救急処置 1) 一次救命処置と二次救命処置 2) 心肺蘇生のプロトコール 3) 二次救命処置 (ALS) の実際	講義・演習	院内講師
11～13	1. 災害看護の定義と健康障害 2. 災害医療の特徴と実際 1) 災害医療の特徴 2) 災害時の医療活動の実際 (演習)	講義・演習	
14～15	1. 災害看護の特徴と看護活動 1) 災害看護の特殊性 2) 被災者特性に応じた災害看護 3) 災害による心のケア	講義	村上 愛美
	試験		

テキスト

1. 系統看護学講座 救急看護学 医学書院
2. 系統看護学講座 専門分野 災害看護学・国際看護学 看護の統合と実践 [3] 医学書院

参考文献

1. クリティカルケア実践の根拠 照林社
2. ICU・CCU 看護 医学書院
3. 急変アセスメント 照林社
4. BLS：写真と動画でわかる一次救命処置 学研メディカル秀潤社
5. ALS：写真と動画でわかる二次救命処置 学研メディカル秀潤社
6. 災害現場でのトリアージと応急処置 日本看護協会出版会
7. 災害看護 心得ておきたい基本的な知識 南山堂
8. いのちとこころを救う災害看護 災害サイクルからみた各期の対応 学研メディカル秀潤社

評価方法

筆記試験 レポート (別紙評価計画参照)

領域	統合分野	対象学年	3年	開講時期	前期
科目	看護総合技術	単位(時間)	1単位(30時間)		
講師名 所属	池ヶ谷 知美 嬉野医療センター附属看護学校 専任教員 実務経験:看護師19年				
<p>科目目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 既習の知識・技術を統合し、臨床場面で遭遇する対象の状況に応じた看護を実践する能力を養う 2. 多重課題が発生したときの優先順位を考慮した判断能力を養う 3. 研究的視点を養い、看護実践能力を向上できる 					
<p>授業概要：</p> <p>臨床に近い形での演習を用いながら、専門分野で学習した既習の知識・技術を統合する。2011年に新人看護職員ガイドラインが策定されたため、その到達目標を知り、看護職員としての必要な姿勢、態度、知識、技術を学ぶ。今回、臨床場面で遭遇する対象の状況を設定した事例をもとに、優先順位やタイムマネジメントを考え看護業務を実践する能力を養うことを目的に学ぶ。</p> <p>また、ケーススタディにおいては、あらゆる対象の健康上の問題を対象や場の個別性に応じて実践し、実施した援助を文献を通して価値づけていく。論理学で学んだ論理的思考や看護研究で学んだクリティーク、研究プロセスを活用しながら論文を作成していく。</p>					
授業計画					
回数	講義内容	講義形式	担当講師		
1	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実践能力の理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護実践に必要な能力 2) 看護実践能力の育成に必要な視点 	講義	池ヶ谷 知美		
2	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床場面で遭遇する看護の実践 <ol style="list-style-type: none"> 1) 多重課題に対する実践 <ol style="list-style-type: none"> (1) 優先順位の考え方 (2) タイムマネジメントと行動計画立案の視点 	講義	池ヶ谷 知美		
3～5	<ol style="list-style-type: none"> 2) 看護の実際 <ol style="list-style-type: none"> (1) 対象の状況に応じた看護の実践 <ol style="list-style-type: none"> ①フィジカルアセスメント ②観察技術 ③観察のポイントとその根拠 ④看護の実践 (看護診断、看護計画にそった看護の実践) 	演習	池ヶ谷 知美		
6～9	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多重課題演習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 複数の患者に対する看護の実践 <ol style="list-style-type: none"> ①優先順位 ②タイムスケジュール ③観察・アセスメントの実際 ④患者への援助 	講義・演習	池ヶ谷 知美		

回数	講義内容	講義形式	担当講師
10～12	1. 臨床で遭遇する診療援助に関する看護技術 1) 輸血 2) 静脈内留置針を用いた点滴静脈内注射	講義・演習	池ヶ谷 知美
13～15	1. ケーススタディ 1) 目的・意義 2) 研究計画書の記載 3) 文献クリティーク 4) 論文作成	講義・演習	池ヶ谷 知美
	試験		
テキスト			
1. 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[1] 看護管理, 医学書院			
参考文献			
1. 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院			
2. 臨床看護技術パーフェクトナビ 学研メディカル秀潤社			
3. 根拠と急変対応から見たフィジカルアセスメント 医学書院			
4. ドレーン&チューブ管理マニュアル 学研メディカル秀潤社			
5. 今日の治療薬 2023 南江堂			
評価方法			
筆記試験 レポート (別紙評価計画参照)			